

# 手練

S H U R E N

第 11 号



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会



## 表 紙

会報名の手練（しゅれん）とは、熟練した手わざのことです。これからも、常に我々が文化財等の日本の屋根を守っているのだとの心構えを忘れず、会報名に恥じないような技術者になっていただくことを願って命名しました。

# 目次

|                                             |                                                                                                 |
|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■ 檜皮採取者（原皮師）養成研修 第15期生 修了式<br>並びに 第16期生 開講式 | 2                                                                                               |
| ● 来賓祝辞                                      | 文化庁文化財部参事官付 主任文化財調査官 豊城 浩行<br>大阪府教育委員会 文化財保護課 文化財企画グループ 総括主査 地村 邦夫<br>兵庫県教育委員会事務局 文化財課 主査 田中 康弘 |
| ● 講師祝辞                                      | 公益社団法人 全国国宝重要文化財所有者連盟 常務理事 事務局長 後藤 佐雅夫                                                          |
| ● 研修生謝辞                                     | 檜皮採取者（原皮師）養成研修 第15期生 足立 大                                                                       |
| ● 激励の言葉                                     | 京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課 課長 川妻 聖枝                                                              |
| ■ 文化財屋根葺土養成研修 第21期生 後期研修 始まる                | 8                                                                                               |
| ■ 茅葺師養成研修 第3期生 後期研修 始まる                     | 9                                                                                               |
| ■ 檜皮採取者養成研修 第16期生 及び<br>平成27年度 檜皮採取中級研修 始まる | 10                                                                                              |
| ■ 茅葺師養成研修 第3期生 後期修了                         | 11                                                                                              |
| ■ 平成27年度 文化財研修会                             | 12                                                                                              |
| ■ 平成27年度 檜皮採取技術査定会                          | 13                                                                                              |
| ■ 主任文化財屋根葺土 検定会 実施される                       | 14                                                                                              |
| ■ 文化財屋根葺土養成研修 第21期生 後期研修 終わる                | 15                                                                                              |
| ■ 平成27年度 茅葺きフォーラム 開催                        | 16                                                                                              |
| ■ 茅葺師養成研修 中級者研修 終わる                         | 18                                                                                              |
| ■ 檜皮採取者養成研修 第16期生 及び<br>平成27年度 檜皮採取中級研修 終わる | 19                                                                                              |
| ■ 温故知新 第9回 世界遺産「賀茂別雷神社」                     | 20                                                                                              |
| ■ 準会員 名簿                                    | 23                                                                                              |
| ■ あとがき                                      |                                                                                                 |

# 檜皮採取者(原皮師)養成研修 第15期生修了式並びに第16期生開講式

期日 ■ 平成27年4月7日(火)

会場 ■ 京都市文化財建造物保存技術研修センター

檜皮採取者(原皮師)養成研修の第15期生修了式並びに16期生の開講式を行いました。

今年度は檜皮採取研修生が3名、それぞれのカリキュラムに沿って研修を受けることになります。最初は研修カリキュラムに戸惑うかもしれませんが、早く慣れて、それぞれの技術や知識を深めるためこの研修を有意義なものにして頂きたいと思います。

## [檜皮採取者(原皮師)養成研修 第15期生]

- 足立 大 / (有)社寺工芸大紀堂
- 大村 直也 / (株)河村社寺工殿社
- 湯野尚一郎 / (有)宮川屋根工業
- 吉竹 秀紀 / (株)村上社寺工芸社



## [檜皮採取者(原皮師)養成研修 第16期生]

- 森 壮馬 / 木下社寺建築
- 立木 覚士 / 岸田工業(株)
- 三又 誠也 / 岸田工業(株)



京都市文化財建造物保存技術研修センター前にて

# 来賓祝辞

文化庁文化財部  
参事官(建造物担当)付  
主任文化財調査官 豊城 浩行



本日の檜皮採取者養成研修第15期生の修了式にあたり、一言お祝い申し上げます。

修了生の皆さんにおかれましては、1年間にわたる研修を無事修了し、ここに修了式を迎えられましたこと、お祝い申し上げます。

檜皮採取者養成研修は、平成11年度から始まり15期の方で延べ53名が修了されています。平成13年度からは資材採取等研修事業として国庫補助により実施され、1人当たりの補助額としては相当な経費が充てられています。国庫補助と言うことは国民の税金を使って行われているということで、皆さんには今後、その技を持って国民に返済する義務があります。

檜皮採取をされる方は、ほぼ檜皮葺も担う事でしょうが、小さな業界とはいえこのような若い方々が興味を持ち、職人として人生を歩もうとされることに、文化財建造物に用いられている檜皮葺の保護に、明るい未来をみることができます。かつては職人は技は教えてもらうものではなく盗むものであるという世界でした。それが研修という形で身につけられることは、かつての職人さん達にとっては隔世の感があることでしょう。しかし、単に受け身で受けた研修と、早く一人前になろう、自らの腕をさらに磨こうと言う意気込みで受けた研修は、自ずとその成果は違ってくることでしょうし、廻りの研修生をみて自らそれに気づかなければなりません。職人は何はともあれ自分の腕で稼ぐもので、その腕により稼ぎにも差がつくはずです。この研修は初めの一步であり、数年後にどのような仕事をしているかは、各自の自覚次第です。

建物が時代を越えて残るのは、その建物を必要とし残そうとする人々が存在したことは当然ですが、長期間の使用に耐えるだけの質が建物に備わっており、適切な修理がなされてきたために残っているのです。建物を構成する材料の善し悪しは、その寿命に大きく影響し、さらにそれを形作る技術が伴ってこそ、長期間残り得る建物が建てられます。その修理も同様であり、檜皮葺においても形良く、長持ちする屋根には檜皮自体の質が良いのは大前提です。皆さん方が、檜皮葺を自ら行う機会があるならば、どのような檜皮が葺き易く、長持ちするか気づかなければなりません。また、檜皮採取している時には、この皮は屋根のどこに葺くのが効果的、効率的かと

いったことも考えられるようになったら理想と考えます。技術の進歩は無限であり、終わりはないはずです。

最近社寺の境内林で良く檜皮採取後のヒノキを見ます。剥きかけてうまく剥けずに放って置かれる木を見ると、無残でなりません。採取した檜皮の質が良いだけでなく、次を取る檜皮も良質なものが採取できる、きれいに剥いてこそ原皮師として一人前であると私は考えます。きれいに剥いた木はヒノキの神々しささえ感じ、森と共に生きてきた日本人の知恵と精神性を示すものとも思います。

檜皮葺、檜皮採取の技術は、近年広く国民の注目を浴びる伝統技術です。多くの人に見られる程、適当なことはできなくなり、その所作は磨かれるはずです。たくさんの人に見られても恥ずかしくない技、口先だけでなくできばえで人をうならせるような職人になって下さい。皆さんの仕事は日本の歴史と文化を継承する、貴重な仕事です。人間としても磨かれ、それにふさわしい職人になって頂く事を願ってやみません。

皆さんの今後の御活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 来賓祝辞

大阪府教育委員会 文化財保護課  
文化財企画グループ  
総括主査 地村 邦夫



第15期檜皮採取者養成研修を修了された研修生のみなさん、まことにめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。各地で厳しい研修を無事勤め上げられた皆さんにとっては、大変充実した1年を過ごされたことと思います。この研修を通じて、得がたい技術と経験を身に付けられ、同僚や多くの先輩技術者とのつながりを得られたことと思います。どうかこれからも互いに切磋琢磨しあい、さらに高みを目指していただきたいと思います。

また第16期研修にこれから望まれるみなさん、前途を祝してお祝い申し上げます。体調管理をしっかりされて、厳しくも楽しい有意義な1年となることを願っております。

さて、文化財をとりまく状況には依然厳しいものがありますが、決して社会の文化財に対する関心が低い訳ではありません。建造物の保存修理現場、仏像の公開、あるいは埋蔵文化財の現地説明会など、文化財が公開される機会には、大変多くの方が集まられるのが常です。私の仕事でも、高校生を連れて文化財を巡ったり、修理現場に案内する機会があります。残念ながら、檜皮という字が読める子はほとんどいませんし、屋根に葺いているのがヒノキの皮であるということもほとんど知られていないのが実情ですが、説明すればすぐに理解し、檜皮の採取技術や、檜皮そのものの素材感、葺きあがった屋根の見事な姿、その屋根を葺く技術に驚き、非常に熱心に見入っています。

身近に伝統的な建築が少なくなった昨今、檜皮に触れる場所というどうしても文化財建造物が主体になり、敷居が高く感じるようですが、身近に見る機会が増えればさらに関心は高まります。文化財の保存を支える素晴らしい伝統技術についてさらに積極的に発信していく必要があると思っています。これを支えるみなさんのさらなるご活躍をお願いしたいと思います。

終わりにあたりまして、研修生の皆様が無事研修を終えられたことに改めてお慶び申し上げますとともに、新たに研修に入られる研修生の前途を祝したいと思います。またこうした研修を長く続けていただいている保存会のみなさまの取り組みに敬意を表し、簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。

本日はまことにめでとうございます。

## 来賓祝辞

兵庫県教育委員会事務局  
文化財課  
主査 田中 康弘



本日は檜皮採取者(原皮師)養成 第15期生の研修修了、誠におめでとうございます。日頃は兵庫県の文化財行政にご理解と、ご高配を賜り、この場をお借りしてお礼申し上げます。

本日は、檜皮採取の研修を一年間受講され、晴れて修了されたことについて、一言ご挨拶申し上げます。

一年前に、開校式で抱負を述べられていたのが、ついこの間のように思われます。一年間の研修はどうでしたでしょうか。比較すべきことでもありませんが、私の過ごした一年よりも、遙かに充実した一年であったことと思います。仕事を覚え始めて、最初の頃の研修期間などは、多くのことを学び、多くのことを吸収できる時期でもあります。今後も、同期生や同年代のかたと共に、切磋琢磨し、この業界をリードしていくスペシャリストに成長してってください。

話は変わりますが、本県には多くの檜皮葺建造物があります。昨年度は、姫路市書写にあります、重要文化財円教寺奥之院護法堂が竣工いたしました。現在は、小野市にあります、重要文化財八幡神社本殿、丹波市にあります、県指定文化財高座神社本殿が檜皮葺の工事中です。それぞれ、葺替の時期に達しており、修理を行ったわけですが、いずれも前回の葺替から40年近く経っており、植物資材で、これほどの耐用年数があるのは、たいへん驚きです。これを可能にするのも、建物が建っている環境によるものかもしれませんが、やはり、檜皮の質や、加工、葺きといった技術の高さによるものであることが大きいといえます。先日伺った現場で、納入された檜皮を拝見しましたが、大変ねばりのある、よい檜皮が搬入されていました。高い技術により、葺かれている檜皮葺屋根は、その仕上がりの美しさと、長い耐用年数により、長年、信頼を得てきた技法と言えます。檜皮採取は、その根幹にあたる技術です。

みなさんが檜皮を採取しているところをお見受けする機会は、なかなかありません。しかし、各地の山林で、檜皮が剥かれた檜の立木を見ることができます。その立木が、みなさんの活躍を示す証しであり、そこに、みなさんの仕事ぶりを伺うことができます。これからも、さらに技術の高みを目指していただき、全国各地でご活躍されることを切に願っております。

最後に、これまで多くの人材を育成し輩出されてきた

# 講師祝辞

公益社団法人  
全国国宝重要文化財所有者連盟  
常務理事 事務局長 後藤 佐雅夫



保存会関係者の方々におかれましては、並々ならぬご苦勞があったことと存じます。引き続き、日本の伝統技術を継承する人材の育成に努めていただくとともに、貴保存会の益々のご発展を祈念して、私の祝辞に代えさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。

平素は国宝・重要文化財建造物の檜皮葺・柿葺・茅葺の葺替工事に従事され、見事に完成され、文化財所有者を代表して保存会の皆様に感謝し、御礼申し上げます。

この度はその檜皮葺の原料である檜皮採取養成研修の第15期生修了式を御迎えになり、講師として喜びに堪えません。研修というのは楽しいことより辛いことの方が多く、それを忍耐強く、そして真面目にされましたことに敬意を表します。

私は、62年前に文化財建造物解体修理工事の監督補佐をさせていただきました。その頃はまだ徒弟制度的なものが残り、厳しい指導で心身ともに疲れ果てましたが、そのおかげで現在あることを喜んでいます。たとえば檜皮の検査も束を外し一枚宛振って検査をし、落ちたものは全部返品でした。今、そのような検査をすれば採用出来る皮は一枚もありません。しかし、時代とともに代わってきましたのであまり贅沢なことは言えませんが、過去の人、たとえば宮川さんの4代前の菊之助さんは、私の恩師西崎先生の検査に耐えておられました。これは過去のこととせず良い皮をとることに専念していただきたいと思います。

さて、第16期生の皆様には保存会の講師の指導に従い研修してください。特にブリ縄の扱いについては命にかかわるものですから、十分な研修を受けた後採取してください。何事も最初が大切です。体の状況には常に留意し、一人前の檜皮採取者になれることを祈念し、講師の祝辞とさせていただきます。



## 研修生謝辞

檜皮採取者(原皮師)養成研修  
第15期生  
足立 大



研修を終えて、皮むきの仕事は面白くて、とてもやりがいのある仕事だと思いました。講師で来てくださった方たちは、とても丁寧に教えてくださったので、とても勉強になりました。研修の同期の人たちはみんないい方たちで、とても楽しく研修を過ごすことができました。これからはお互いの力を高め合っていけるような関係でありたいと思います。

今後は各社に戻り、原皮師の仕事をすることになりますので、それぞれの先輩の下で技術を高められるように頑張ります。まだまだ未熟な私達ですが、先輩たちに負けない様努力します。

## 激励の言葉

京都市文化市民局  
文化芸術都市推進室  
文化財保護課  
課長 川妻 聖枝



本日は、第15期檜皮採取者(原皮師)養成研修生の足立大さん、大村直也さん、湯野尚一郎さん、吉竹秀紀さんにおかれましては、無事研修修了されましたこと、誠におめでとうございます。1年間ご苦労様でした。

また新たに第16期檜皮採取者(原皮師)養成研修生として、森壮馬さん、立木覚士さん、三又誠也さんの3名の方々をお迎えしました。誠に喜ばしいことで、研修生の皆様は、体に気をつけて頑張っていたきたいと存じます。

さて、文化財を保存するための技術の継承を取り巻く社会環境は、皆さまご承知の通り、厳しいものとなっております。文化財保存技術者の減少、高齢化、修理資材の確保が困難な状況が続くなか、平成18年より、国の事業として、文化財建造物の保存のために必要な木材、檜皮、茅、漆等の植物性資材を安定的に確保しつつ、これらに関わる保存技術者の育成を推進する「ふるさと文化財の森システム推進事業」が展開されております。文化財建造物の保存のために必要な資材の確保や保存技術者の育成、これらに関する普及啓発活動、保存修理現場の公開等が全国各地で行われておりますが、このような国の取り組みは、原材料や文化財保存技術の継承者不足というような文化財の修理や保存の現場で生じている問題や課題を共有し、文化財の保存に携わる人だけでなく、広く一般の人々にも文化財への関心や理解を深める好機となっております。

文化財保存技術継承の重要性が改めて認識される今、ここ京都市文化財建造物保存技術研修センターで、文化財建造物の保存技術を学ばれた方は、100名を超え、全国の文化財修復の現場で御活躍いただいております。当センターが、開所当初より全国社寺等屋根工事技術保存会様に管理運営をお願いして、屋根工事に限らず、全国の文化財保存技術者の研修にご利用いただいておりますことは、まことに喜ばしいことであります。

京都市では、昨年度より、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、文化財修理の補助事業として、未来へつなぐ歴史的建造物等計画的修理事業を実施しております。歴史文化都市としての京都の魅力を国内外に発信するため、市指定文化財の修理に力を入れています。平成26年度の4件の修理事業のうち、屋根修理では、京都市左京区天授庵客殿の葺替え事業に補助



いたしました。京都市内の貴重な文化財を未来へつなげていくためには、京都市民はもとより京都を訪れた方々にも、文化財建造物だけでなく、修理に必要な資材や技術に対する関心と理解を持っていただく必要があります。当センターでの取組は有意義なものであります。なかでも文化財の保存技術の継承は、非常に重要であり、今後とも皆様と連携し取り組んでまいりたいと存じます。

今回、研修を受講、あるいはこれから受講される方々は、今後ますますの研鑽に励んでいただき、将来の文化財の守り手として、御活躍されますことを祈念いたしまして、まことに措辞ながら、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日はまことにおめでとうございます。



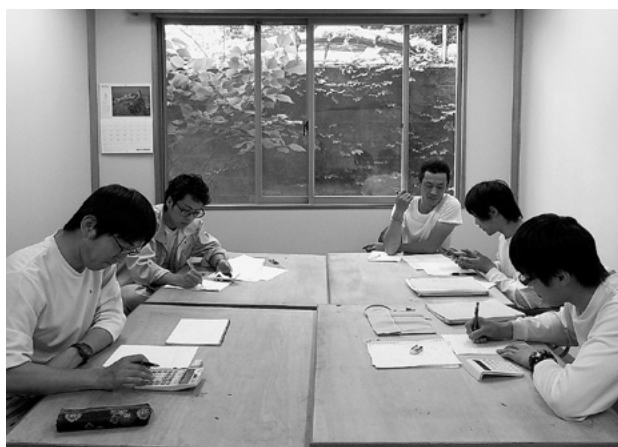
# 文化財屋根葺士養成研修 第21期生 後期研修 始まる

国庫補助事業として行われている第21期文化財屋根葺士養成研修の後期研修が、国会の予算編成により当初の予定からは遅れたものの、4月13日より開始致しました。今期は屋根葺技術に重きを置き、切妻模型による葺実習用の材料整形、そしてその模型屋根葺実習を保存会承認の主任文化財屋根葺士を含む講師の方々に指導を受けながら行いました。各々、釘を出すスピードや皮を綺麗に並べる技術は昨年よりも数段上手くなっていますが、裏板、留甲の取付、箕甲の平葺など、初めて施工する部位に皆一様に、悪戦苦闘しつつも、何とか葺きあげることができました。研修生にとっても「実際にやってみる」ということで非常に勉強になったのではないかと思います。

今期は4つの現場実習、製図や座学、そして2年間の集大成と言える卒業現場実習と、どんどん内容が濃くなっていきます。研修生の皆さんはどの時間も無駄にせず、最後まできっちり取り組んでいただきたいと思います。



模型屋根葺実習



座学



模型屋根葺実習



材料整形



現場実習

# 茅葺師養成研修 第3期生 後期研修 始まる

## 基本的技術の習得が 第一のねらい

おかげをもちまして、茅初級研修も後期課程を始めることができました。今年度力を入れております、山南センターでの模型を使った実践研修は、軒付から棟の仕上げにかかる工程で進めております。1クール(1週間)の実習作業が6クールの予定で組まれております。昨年度は軒付までの工程が終了しており、今年度は水切り、平葺、棟作りの順番で進んでまいります。

技術の統一化や、美しさのみの追及としたものではなく、あくまで基本の技の習得を目指し、その上で、各事

業所に帰り、さらに学びを深めてもらうのが目的です。また伝統文化の技の継承者としての自覚を持たせ、自分の技を磨き、誇りを持って仕事をし、先人を尊敬し、そして後継者を育てられる、誰からも頼りにされる人材になってほしいと願ってなりません。欲張りでしたが、そんな茅葺初級研修を目指しております。

幸い、研修生も熱心に学んでくれており、うれしいかぎりです。今後も引き続き宜しくお願い致します。



# 檜皮採取者養成研修 第16期生 及び 平成27年度 檜皮採取中級研修 始まる

檜皮採取者養成研修事業には、今年度3名の研修生が入講し、8月17日から京都市文化財建造物保存技術研修センターにおいて、座学やへら作りなど4日間の講義を受け、8月24日より福井県の大瀧神社の境内林においての実技研修を開始しました。初級研修生は荒皮の採取研修になりますので、葺き材として使える檜皮を採取できるように、へらの使い方、また木の登り方など基本となる技術を各指導員の指導の下、この研修で身に付けてほしいと思います。

また、今年度の中級研修生は32名で、8月24日より18クール(1クール2週間)に分かれ、初回は広島県の野路山国有林と岡山の臥牛山国有林に入山し、研修を開始し

ました。近畿中国森林管理局内では5ヶ所の国有林、中部森林管理局内では賤母国有林の1ヶ所と大阪の河内長野市市有林、京都大学の徳山試験地、九州大学の演習林、また民有林は埼玉、京都、徳島の私有林に入山し、荒皮と黒皮の採取研修に参加してもらいます。中級生中에서도7名は初級生の指導に当たってもらいます。

今年度も国有林はじめ、各山林所有者の方々にはこの研修にご理解ご協力いただきありがとうございます。保存会としても、文化財保存にかかす事のできない技術者を1人でも多く育てられるように、この事業に取り組んでいきたいと思っています。

## 16期生



## 中級生

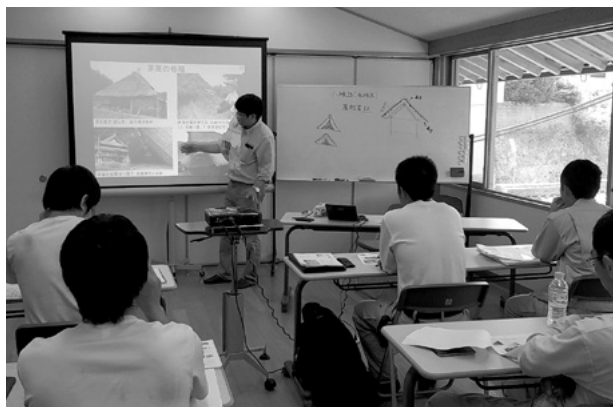


# 茅葺師養成研修 第3期生 後期修了

おかげをもちまして、茅葺初級研修第3期を無事終えることができました。2期研修までは1年間の講義と実習で進めておりました。しかし、まだまだ基本的に学習した方が良いことがたくさんあり、2ヶ年のカリキュラムで進めています。

文化財の修復に携わる者として恥ずかしくないよう知識だけでなく、人格も磨いていけますよう指導しております。今回山南センターで、初級生ばかりで仕上げた模型の茅葺には、確実にたしかな歴史が刻まれていると思います。

来年も引き続き行う予定です。よろしくご指導お願い申し上げます。



座学

実習



# 平成27年度 文化財研修会

期 日 ● 平成27年10月23日(金)  
会 場 ● 宝厳寺(琵琶湖の竹生島／滋賀県長浜市早崎町1664)

本年度の研修会は竹生島の宝厳寺保存修理現場を会場に開催いたしました。フェリーに乗船し竹生島へ渡り、滋賀県文化財保護課 菅原 和之様のご案内の下、観音堂、唐門、舟廊下、都久夫須麻神社の建築について現地研修を行い、施工中の観音堂檜皮葺工事現場を見学、その後、宝厳寺住職 峰 覚雄様の講演を拝聴しました。講演では「宝厳寺の歴史について」と題され、竹生島の由緒や、歴史的価値についての講義を頂きました。最後に、準会員 岩崎 剛による「唐破風の施工について」の事例報告を受け、研修会は無事閉会いたしました。

半日間という短い時間ではありましたが、参加者の中には初めて訪れる者も多く、大変有意義な時間を過ごすことができたと感じております。研修会開催にあたりご協力を頂きました、峰住職をはじめ宝厳寺の皆様方、滋

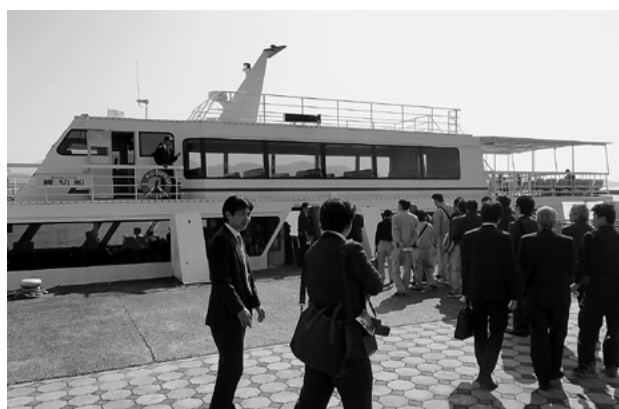
賀県教育委員会文化財保護課の皆様には改めて厚く御礼を申し上げます。



修理現場見学



修理現場見学



フェリーに乗り込む参加者



滋賀県 菅原様による現地説明



宝厳寺 峰住職の講演



準会員 岩崎 剛の事例報告

# 平成27年度 檜皮採取技術査定会

期 間 ● 平成27年10月26日(月)～27日(火)

会 場 ● 京都大学徳山試験地(山口県周南市)

今年度は、初級生と中級生合わせて12名が査定を受け、指導員2名と指導補助員6名が技術の査定に当たりました。年々、全体の技術は向上してまいりましたが、この2日間だけでなく通常の研修での年間考課値も加味しますので、日頃から向上心を持って研修に参加してもらわなければなりません。

年間の採取研修事業が終了後、査定会での評価や年間考課値から4段階ある技術ランクの内、該当するランクを決定し、来年度の研修事業に参加してもらいます。各事業所においては今後も引き続き日頃の指導をお願いしたいと思います。

今回、快く査定会にご協力くださいました京都大学徳山試験地の関係者の方々には心より感謝申し上げます。まだまだ研修事業は続きますので、研修生は今後も一生懸命採取研修に取り組んでほしいと思います。



# 主任文化財屋根葺士 検定会 実施される

檜皮・柿葺【第15回】● 平成27年10月5日(月)～10日(土)／4名(檜皮葺師)

茅 葺【第7回】● 平成27年10月5日(月)～10日(土)／2名

平成27年度 主任文化財屋根葺士検定会を、兵庫県丹波市の丹波市ふるさと文化財の森センターにて行いました。今回の検定会には檜皮葺4名・茅葺2名の参加があり、指定模型の屋根葺実地試験と筆記試験を実施しました。

今回は検定員として、(公社)全国国宝重要文化財所有者連盟 常務理事 事務局長 後藤佐雅夫様をはじめ、滋賀県、京都府、(公財)文化財建造物保存技術協会の各文化財修理担当の先生方、当会監事及び理事等正会員が務め、合格者は檜皮葺2名、茅葺2名という結果になりました。不合格となられた方につきましては、今回の結果を今後の自己技術の向上に繋げられ、次回合格を目指して再度頑張ってください。



## 主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 開催

平成27年度 主任文化財屋根葺士認定証更新講習会を平成27年12月5日(土)、京都市文化財建造物保存技術研修センターにて行いました。

この更新講習会は、主任文化財屋根葺士に認定され、3年が経過した方を対象に行うもので、今回15名の受講がありました。講師は(公社)全国国宝重要文化財所有者連盟 常務理事 事務局長 後藤佐雅夫様で、日本建築史、神社建築等の講義後に試験を実施、受講者全員が合格いたしました。この講習が新たな発見、知識の充足に繋がり、今後の仕事に生かしていただけるものと思います。



# 文化財屋根葺士養成研修 第21期生 後期研修 終わる

## 座学・実技



模型実測



製図



道具拵え



建築史演習

平成27年度国庫補助事業、文化財屋根葺士養成研修第21期生の後期研修は、平成27年4月より京都市文化財建造物保存技術研修センターで始まり、講義、製図・実測の研修を受講。実技では道具・皮の材料整形、4ヶ所の屋根葺現場実習、そして集大成と言える卒業現場実習では、北野天満宮(京都市上京区)摂社の地主社において研修生主体で屋根を葺き、11月12日、無事全課程を終了しました。この間、研修生は総1,176時間を履修致しました。

前期と違い、後期はより専門的な内容となり、研修生の目は生き生きとし、新しい工法、素晴らしい文化財を見学できる建築史演習など、真摯に取り組めていたように感じます。今後も更なる高みを目指して、技術の研鑽に励んで頂くことはもとより、この2年間、共に釜の飯を食べてきた同期と連絡を取りながら、切磋琢磨し、また叱咤激励しながら頑張りたいと願います。

最後になりましたが、関係者各位にはお礼を申し上げますとともに、今後ともご指導ご協力の程よろしくお願い致します。

## 卒業現場実習



葺き替えを終えた北野天満宮摂社 地主社にて

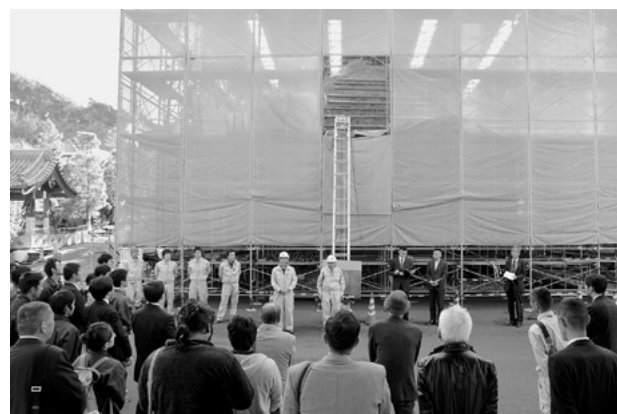
# 平成27年度 茅葺きフォーラム 開催

茅葺技術研修の期間中に毎年行っております茅葺きフォーラムを開催いたしました。今回は、1日間だけの日程ではありましたが、文化庁、文化財建造物保存技術協会様を始め関係者60名あまりの参加があり、茅葺における意識が高まってきたと喜んでおります。

午前中は建長寺 鐘楼の現場見学を、午後からは会場を建長寺 応真閣に移して協議会を行いました。事例発表では、駒 宏樹準会員が伊勢原市 日向薬師本堂の茅葺葺き替えについて、スライドを用いながらの説明を行い、大きな屋根に皆さんの興味を引いておりました。その後の討論会では、茅葺屋根の地方性について、技術に関する活発な意見交換が行われました。

毎年、少しずつではございますが、茅葺に、ひいては、文化に対する関心が増えてきたと感じております。日本古来の伝統を引き継ぐため、今後とも引き続き頑張ってまいります。

この度の茅葺きフォーラムにあたり、文化庁 岡本 公秀様、文化財建造物保存技術協会 佐藤 武王様、大本山建長寺派 宗務総長 高井 正俊様を始めとする関係者各位に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



会場となった建長寺 研修現場

## 見 学 会

平成27年11月16日(月)

- 見学場所 ● 建長寺 鐘楼（神奈川県鎌倉市山ノ内8）
- 建物説明 ● 大本山建長寺派 宗務総長 高井 正俊
- 現場講師 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 正会員 隅田 隆蔵・田中 正光

## 協 議 会

- 協議会場 ● 建長寺 応真閣（神奈川県鎌倉市山ノ内8）
- 開会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 会長 村上 英明
- 来賓挨拶 ● 公益財団法人 文化財建造物保存技術協会 設計室技術主任 佐藤 武王
- 講 演 ● 文化庁文化財部参事官付 文化財調査官 岡本 公秀  
題目「屋根葺の歴史」
- 事例発表 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 準会員 駒 宏樹  
題目「関東地方の茅葺き屋根」
- 討 論 会 ● [司会] 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 正会員 中野 誠  
題目「茅葺き屋根の地方性について」
- 総 評 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 名誉会長 鈴木 嘉吉
- 閉会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 副会長 長崎 真知夫

## 見学会



建長寺 鐘楼 茅葺研修現場見学



隅田正会員の説明を受ける参加者

## 協議会



宗務総長 高井正俊様による建長寺の説明風景



来賓挨拶 文化財建造物保存技術協会 佐藤武王様



講演 文化庁 岡本公秀様



総評 名誉会長 鈴木嘉吉



事例発表 準会員 駒 宏樹



討論会風景

# 茅葺師養成研修 中級者研修 終わる

神奈川県鎌倉市の建長寺 鐘樓の茅葺葺き替えに当たり、中級者3名、指導員補助1名、講師2名のメンバーで研修を行うことができました。

この建物自体の指定はございませんが、いつ指定されてもおかしくない、素晴らしい建物です。できるだけこの地方の葺き方にそって、復元していきました。

選定技術保持者の隅田隆蔵正会員、田中正光正会員の指導の下、研修生たちは良くやってくれました。特に、茅葺の箕甲はやりがいがあったと思います。完成し、国宝である梵鐘が、より一層引き立てられた気がします。

お世話になった関係者の皆様に御礼申し上げます。



建長寺 鐘樓



①足場を組んだ施工前の様子

②水切り



③棟づくり



## 実習の全景

④棟本巻き



⑤ケラバ施工

⑥ケラバの仕上げ



⑦破風品段の仕上げ



⑧葺き替えを終えた建長寺 鐘樓

# 檜皮採取者養成研修 第16期生 及び 平成27年度 檜皮採取中級研修 終わる

平成27年度の檜皮採取者(原皮師)初級養成研修事業は、8月17日の京都市文化財建造物保存技術研修センターにおいての座学を皮切りに、8月24日から福井県の大瀧神社境内林において採取技術の実技研修を開始いたしました。本年度の初級研修生は3名で、年齢も違いますが、それぞれ仕事の経験もあり順調にスタートしました。その後は、河内長野市の市有林、また九州大学の演習林、近畿中国森林管理局内の各国有林、京都府長岡京市の楊谷寺境内林において実技研修を重ねました。

初級研修の途中ではありましたが、中級研修生と一緒に査定会にも参加しました。本年度はそれぞれに少しの

経験があり、それまでに教えてもらっていたことと、今回各指導員から受ける指導との違いに、戸惑うことが多かったのかもしれませんが、その指摘は長年の経験から得たとても参考になる話ばかりなので、十分心に留めていただきたいと思います。来年度からは中級研修生として黒皮の採取にも参加してもらわなければならないので、今回のこの研修をしっかりと踏まえ、今後は更なる技術の向上に努め、一日も早く一人前になれるように努力してください。

また、中級研修生も8月24日から2月5日まで、中部森林管理局内の国有林と近畿中国森林管理局内の各国有林、また徳島県と埼玉県の民有林で、黒皮と荒皮に分かれて20クルルの研修を行いました。中級研修生も年々経験を積み重ねて、技術力も安定してきましたが、査定会を見てみると、まだまだ努力が必要な研修生も見受けられました。今後もこの研修事業に参加していただき、技術の研鑽を積んでください。

この研修事業に対して研修林をご提供くださった国有林関係者の方々、その他の森林所有者の方々には深く感謝申し上げます。来年度もご理解ご協力をお願い申し上げます。

## 初級研修



## 中級研修



# 温故 知新

● 現場レポート

第9回

## 世界文化遺産 かもわけいかづちじんじや 賀茂別雷神社

[正会員] 岸田工業(株)  
岸田信行



正面権殿・右隣本殿

当保存会の会員によって施工されている、現場の様子をお伝えする「温故知新」。今回は、賀茂別雷神社（上賀茂神社）の歴史や特色、施工時の仕様・留意事項など、現場での生の声をお届けします。

名 称 ● 賀茂別雷神社  
場 所 ● 京都市北区上賀茂本山339  
構造形式 ● 三間社流造  
前回葺替 ● 昭和40年代中頃

## 京最古の社の一つ、 21年目の式年遷宮を迎えて

### 神社の創立と沿革

賀茂別雷神社は、一般に上賀茂社の名で知られ、賀茂御祖神社（下賀茂社）とともに、その創立は奈良時代以前にさかのぼるといわれる。祭神は賀茂別雷神で神代の

昔、本社の北にある神山<sup>こうやま</sup>にご降臨され、平安遷都以降は王城鎮護の神として崇敬をあつめていた。

社殿は天武天皇のとき（673-86）山背国をして造替せしめたというのを始めとし、以後古来より式年造替の制をとっていたが、室町時代後半にこの制が衰えた。江戸時代に入ってから再び式年造替が復活し、寛永、延宝、正徳、寛保、安永、享和、天保の造替を経て、文久3年（1863）に、現在の本殿（国宝）・権殿（国宝）が造替された。この神社の現建物の建立年代が江戸時代に属するが、平安時代以来の姿を極めてよく伝えており、本社関係の主要建物30棟が明治34年に重要文化財に指定され、昭和42年には摂社若宮・新宮・片岡の三神社、本殿、拝殿等6棟が追加指定されている。

### 国宝 本殿・権殿の建築様式

両殿とも三間社流造で桁行三間、梁間二間の身舎の前面に三間の向拝を付けた形式で、屋根の前面は向拝にまで緩い流れをつくって葺きおろしている。流造の名はこの形態から生まれたものである。流造は神社本殿の内、最も普遍的な形式である。現在、重要文化財に指定されている本殿242棟中、55%が流造で最も多く次いで、春

日造、入母屋造の順となっている。この流造の中でも三間社が115棟、一間社が93棟、次いで二間社、五間社、九間社、十一間社の順となっている。

両殿とも白木造で、正面三間の中央間を戸口とし、両脇間は板壁で獅子狛犬の絵がある。側面二間、背面三間は板壁で、周囲には高欄付の縁を廻らし、戸口の前に木階を付け、階下には三間に亘る浜床がある。母屋の丸柱も浜床の角柱も井桁に組まれた土台の上に立つことは春日造と同様である。各柱頂には舟肘木をのせ軒桁を受け、身舎は繁垂木、向拝は疎垂木を取り付けている。屋根は檜皮葺で軒付け一重、棟は箱棟で両端に獅子口を置く。

(公社)全国国宝重要文化財所有者連盟 常務理事 事務局長 後藤佐雅夫 著『世界遺産をまなぶ(2) 上賀神社～やがて檜皮となる木を贈ろう～』平成24年より引用

## 檜皮葺施工にあたり

式年遷宮を迎え、約40年ぶりの屋根檜皮葺修復葺替工事に関われたこと大変感謝をしています。私自身、既存の檜皮葺が経年劣化している状態での実測調査にも時間をかけ、仕上りを頭の中でイメージし、監理技術者と話し合いました。

色々な取り合いがある中で、大きさが同じ本殿と権殿を平軒付の仕上りで大きく見せたことで、全体的に雄大な屋根に仕上がったと思います。

以下、雨仕舞で悩んだところを紹介します。



唐門より本殿を望む

## 先人の技と心を 後世につなぐ積み重ね

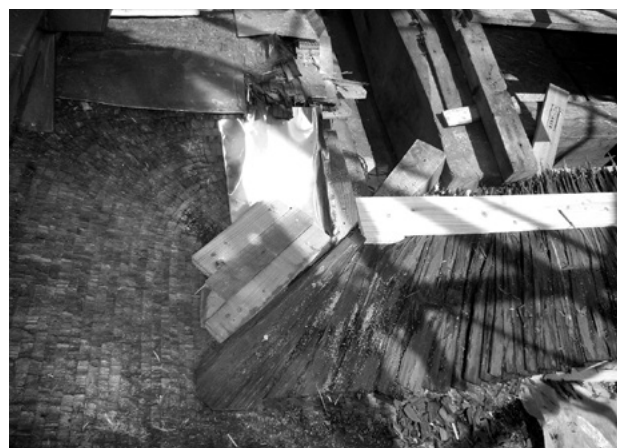


1



2

1 本殿正面東側が本殿東渡廊取合廊と接続している。蛇腹板が途中で切れて線を出すのに時間がかかり、又、雨仕舞に悩み捨板銅板で雨水を拾った。(写真①-1、①-2)



2 本殿正面西側が取合廊及び透廊に接続し透廊の屋根面で雨水を拾い本殿破風板からの雨水が入らない様に隠し銅板にて雨水を外に出した。(写真②)



3 本殿と権殿の間にある取合廊は、しぶき止板があり唐破風屋根になっているが、しぶき止板と屋根面から雨が入るのを恐れ、しぶき止板の下に捨板銅板水切を入れて、ひねりかけ施工をし、又その上から銅板水切を入れて雨仕舞をした。(写真③)



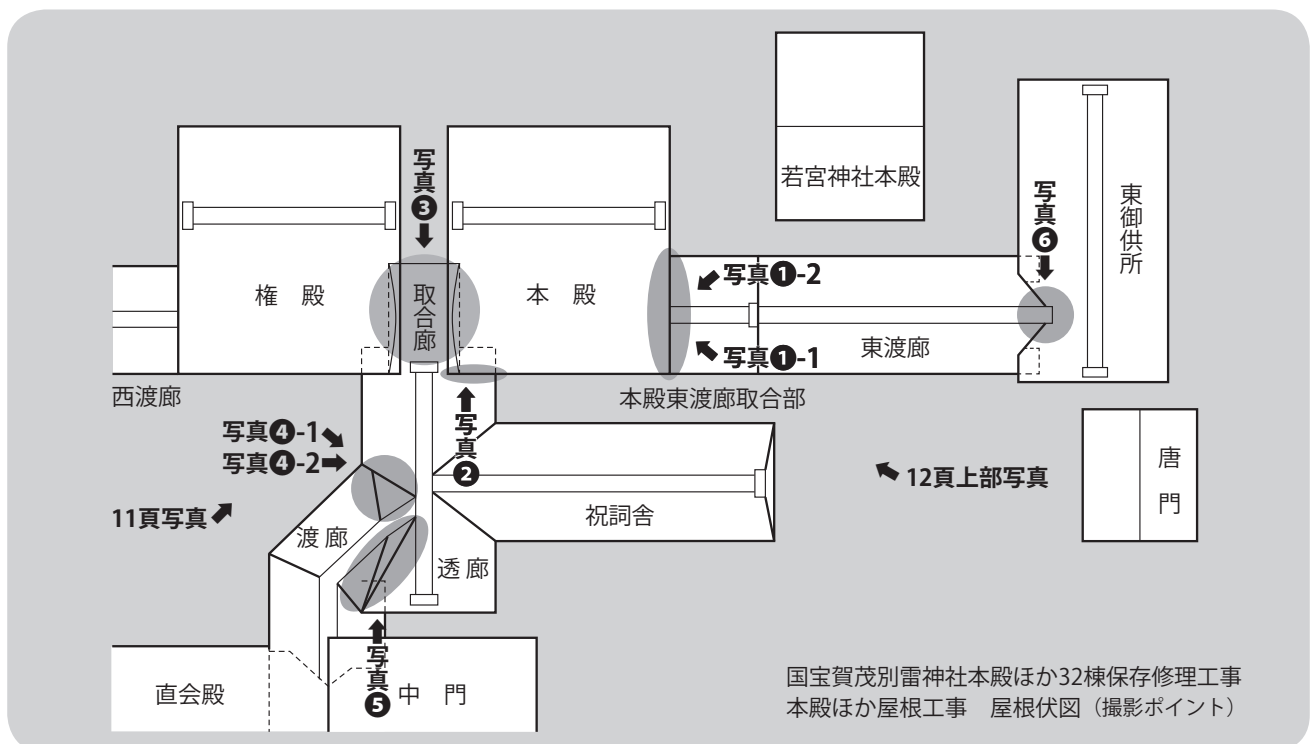
4 透廊と渡廊が屋根面野地板につながっているが、軒先の方に勾配がとれているのではなく渡廊の方に雨水が集まる様になっている。谷皮葺仕舞だが、横に雨が流れるので注意しながら慎重に葺上げた。(写真④-1、④-2)



5 透廊と渡廊が接続をして谷皮葺仕舞で、3本の谷が集まり1ヶ所から雨が出る様になっている。(写真⑤)



6 東御供所と東渡廊が接続をして檜皮葺で雨仕舞をしてから箱棟銅板卷きを施工した。(写真⑥)



## ■準会員名簿

[五十音順]

| No. | 氏 名    |
|-----|--------|
| 1   | 青木 胤 勲 |
| 2   | 青木 照 幸 |
| 3   | 青 山 亨  |
| 4   | 赤 嶺 尚耶 |
| 5   | 赤 嶺 怜  |
| 6   | 朝野 達也  |
| 7   | 芦田 健太  |
| 8   | 蘆田 祐明  |
| 9   | 足立 健一  |
| 10  | 足立 大   |
| 11  | 安部 悟司  |
| 12  | 飯野 映稚  |
| 13  | 池田 陽輔  |
| 14  | 石井 潤   |
| 15  | 石井 規雄  |
| 16  | 石川 良三  |
| 17  | 石塚 健一  |
| 18  | 市原 健   |
| 19  | 一色 律男  |
| 20  | 井手 莊和可 |
| 21  | 井手本 将司 |
| 22  | 伊藤 貴弘  |
| 23  | 伊藤 延行  |
| 24  | 伊東 洋平  |
| 25  | 糸賀 一道  |
| 26  | 犬飼 傳吉  |
| 27  | 井上 裕貴  |
| 28  | 入江 匠   |
| 29  | 岩崎 正   |
| 30  | 岩崎 剛   |
| 31  | 上野 英樹  |
| 32  | 上原 玉青  |
| 33  | 上村 淳   |
| 34  | 梅澤 朋充  |
| 35  | 瓜生 玉樹  |
| 36  | 大崎 悠   |
| 37  | 大藤 義一  |
| 38  | 大西 康純  |
| 39  | 大野 沙織  |
| 40  | 大野 隼矢  |
| 41  | 大村 直也  |
| 42  | 岡田 和申  |
| 43  | 緒方 伸也  |
| 44  | 岡野 史和  |
| 45  | 岡山 春樹  |
| 46  | 奥田 治郎  |
| 47  | 奥田 正博  |
| 48  | 奥田 讓   |
| 49  | 奥谷 大樹  |
| 50  | 尾崎 良助  |

| No. | 氏 名    |
|-----|--------|
| 51  | 小澤 翔太  |
| 52  | 片岡 晶   |
| 53  | 方山 和也  |
| 54  | 勝部 哲也  |
| 55  | 加藤 貴規  |
| 56  | 加藤 守   |
| 57  | 金澤 翔太  |
| 58  | 金谷 史男  |
| 59  | 金磯 豊   |
| 60  | 包國 眞匠  |
| 61  | 金子 英生  |
| 62  | 上出 健   |
| 63  | 亀井 輝彦  |
| 64  | 嘉本 洋士  |
| 65  | 川田 徳宏  |
| 66  | 川西 鹿久介 |
| 67  | 河野 修二郎 |
| 68  | 河村 守左史 |
| 69  | 菊地 健倫  |
| 70  | 菊池 保   |
| 71  | 岸田 直彦  |
| 72  | 北村 亮太  |
| 73  | 吉川 圭一  |
| 74  | 吉川 晋二  |
| 75  | 木下 和也  |
| 76  | 木下 真介  |
| 77  | 木村 健太  |
| 78  | 清田 幸臣  |
| 79  | 國本 雅史  |
| 80  | 熊谷 一雄  |
| 81  | 栗山 光博  |
| 82  | 栗山 雄二  |
| 83  | 栗山 芳博  |
| 84  | 小池 一平  |
| 85  | 古川 一敏  |
| 86  | 児島 真介  |
| 87  | 児玉 典史  |
| 88  | 後藤 哲夫  |
| 89  | 小西 繁信  |
| 90  | 小林 正之  |
| 91  | 小原 一樹  |
| 92  | 駒 宏樹   |
| 93  | 近藤 竜太  |
| 94  | 酒井 慶伍  |
| 95  | 寒河江 清人 |
| 96  | 坂口 哲也  |
| 97  | 櫻井 零   |
| 98  | 佐々木 孝則 |
| 99  | 佐治 円創  |
| 100 | 澤田 昌己  |

| No. | 氏 名                    |
|-----|------------------------|
| 101 | 塩田 隆司                  |
| 102 | 島崎 秀徳                  |
| 103 | 須賀 均                   |
| 104 | 須賀 将志                  |
| 105 | 杉井 喜雄                  |
| 106 | 杉谷 功                   |
| 107 | 大下 倉 優                 |
| 108 | 高島 優雅                  |
| 109 | 高橋 健一                  |
| 110 | 高橋 裕志                  |
| 111 | 高平 勝也                  |
| 112 | 竹森 暢哉                  |
| 113 | 武山 貞秋                  |
| 114 | 武山 貞範                  |
| 115 | 立木 覚士                  |
| 116 | 田中 順也                  |
| 117 | 田中 慎一                  |
| 118 | 田中 貴也                  |
| 119 | 田中 智紗衣                 |
| 120 | 寺田 美乃里                 |
| 121 | 戸梶 憲幸                  |
| 122 | 時長 祐貴                  |
| 123 | 中尾 隆二                  |
| 124 | 長崎 貴宣                  |
| 125 | 中西 純一                  |
| 126 | 長野 直人                  |
| 127 | 永原 光敬                  |
| 128 | 中村 裕司                  |
| 129 | 中森 千尋                  |
| 130 | 西 裕之                   |
| 131 | 西内 久恵                  |
| 132 | 西堀 大樹                  |
| 133 | 西村 聡央                  |
| 134 | 西村 信生                  |
| 135 | 西村 好永                  |
| 136 | 沼澤 修一                  |
| 137 | 野上 邦彦                  |
| 138 | 野谷 嘉邦                  |
| 139 | BAATARSUREN BAT ERDENE |
| 140 | 長谷部 直之                 |
| 141 | 林 直 希                  |
| 142 | 東 友一                   |
| 143 | 樋口 裕二                  |
| 144 | 檜 篤広                   |
| 145 | 平片 功一                  |
| 146 | 平田 将大                  |
| 147 | 平野 健太郎                 |
| 148 | 平野 裕也                  |
| 149 | 廣内 翔                   |
| 150 | 深本 英昭                  |

| No. | 氏 名    |
|-----|--------|
| 151 | 福岡 亮太  |
| 152 | 藤岡 健太  |
| 153 | 藤中 竜也  |
| 154 | 藤吉 宏明  |
| 155 | 渕上 大輔  |
| 156 | 古川 和樹  |
| 157 | 細見 和希  |
| 158 | 細見 知憲  |
| 159 | 細見 裕   |
| 160 | 堀内 博樹  |
| 161 | 本多 亮貴  |
| 162 | 毎熊 徳満  |
| 163 | 前尾 康雄  |
| 164 | 槇原 孝宜  |
| 165 | 松木 裕紀  |
| 166 | 松島 俊一  |
| 167 | 松村 省弥  |
| 168 | 松村 純孝  |
| 169 | 松村 有記  |
| 170 | 三上 和夫  |
| 171 | 三上 直   |
| 172 | 三木 宏祐  |
| 173 | 道繁 康   |
| 174 | 三ツ出 俊平 |
| 175 | 緑川 幹雄  |
| 176 | 峰地 幹太  |
| 177 | 三又 誠也  |
| 178 | 向田 学   |
| 179 | 村岡 伸康  |
| 180 | 村上 章浩  |
| 181 | 村上 貢章  |
| 182 | 森 壮馬   |
| 183 | 森山 淳希  |
| 184 | 柳瀬 航   |
| 185 | 矢野 友則  |
| 186 | 山久 直也  |
| 187 | 山口 成貴  |
| 188 | 山口 宗平  |
| 189 | 山本 政志  |
| 190 | 湯野 尚一郎 |
| 191 | 吉川 一生  |
| 192 | 吉川 智庸  |
| 193 | 吉竹 秀紀  |
| 194 | 余宮 祥平  |
| 195 | 脇村 勇海  |
| 196 | 和田 琢男  |
| 197 | 渡辺 昌弘  |
| 198 | 渡部 雄太  |

(2015.4.1 現在)

#### 発行所

京都市東山区清水二丁目 205-5  
文化財建造物保存技術研修センター内



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

TEL 075-541-7727 FAX 075-532-4064  
<http://www.shajiyane-japan.org>

手  
練

第 11 号

平成 28 年 8 月 31 日発行

## あ と が き

第31回夏季オリンピック競技会リオデジャネイロ大会が8月21日、17日間の全ての競技を終え、幕を閉じました。今大会で日本は、金メダル12個、銀メダル8個、銅メダル21個、合わせて41個のメダルを獲り、前回ロンドン大会の38個を上回る史上最多のメダル獲得となりました。陸上男子400mリレーでは、個人の100mリレーで誰も9秒台を出せていないのに、助走で加速して走りをつなぐリレーを見せ、平均9秒台という走りでも2着に食い込みました。日本の世界に誇れる技術力を見た思いでした。

次回2020年は東京で開かれます。開催費用の高騰が問題になっている東京では、リオ五輪の取り組みを参考に最大限の無駄を省き、世界の多くの都市が目指せる、財政にも環境にもやさしいエコ感覚に富んだ東京大会にしてもらいたいものです。

# 手練

S H U R E N

第 11 号



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会